

# 農業大学校の近況

副校長  
金原 節子

一  
概況

平成二十五年度（四月一日現在）の本校の学生数は、教育部農学科（以下農学科と記す）が百五十三名、教育部研究科（以下研究科と記す）が二十二名、総数は百七十五名です。うち女子は三十二名で十八%を占め、昨年度より若干少なくなっています。

専攻別学生数は、左の表のとおりです。農学科では、専攻間で十二名から三十一名と幅がありますが、野菜の二専攻と果樹を希望する学生が多い傾向にあるためです。

一方、研究科の専攻については、昨年に引き続き、畜産専攻の学生はなく、園芸農産専攻のみとなりました。

現在の学生数(4月1日時点)			(単位:人)	
農 学 科	学科・専攻	1年生	2年生	計
	鉢物・緑花木	9	3	12 (2)
	切 花	9	11	20 (4)
	作 物	8	5	13 (0)
	果 樹	11	9	20 (2)
	露地野菜	16	15	31 (7)
	施設野菜	12	10	22 (2)
	酪 農	12	10	22 (8)
	養豚・養鶏	9	4	13 (4)
	計	86	67	153 (29)
研究 科	園芸農産	7	15	22 (3)
	畜 産	0	0	0 (0)
	計	7	15	22 (3)
合 計		93	82	175 (32)
( )内は女子の人数で内数を示す				

## 農學科卒業生進路狀況

農子科卒業生進路状況		(単位:人)
就農	後継者	10(11%)
	農業法人	28(32%)
	一時就職後就農	8(9%)
就職		20(23%)
研修		4(5%)
進学		7(8%)
その他・未定		11(12%)
計		88(100%)

（弘前大、信州大）に二名が進みました。研究科卒業生は、即就農が三名、就職等が六名です。

研究科の入学者は七名で、その多くが本校の農学科から進学した学生です。

### 三 進路状況

昨年の農学科卒業生の進路は、左表のとおりです。後継者として即就農、農業法人、一時就職後就農者を合わせると四十六名となり、五割強の学生が就農しています。また、農業法人への就職が多いことが特徴であり、昨年から始まつた国の中青年就農給付金の影響があると思われます。主な就職先は農協等農業関連企業となつていてます。進学については、研究科の

### 三 進路状況

名で、最近五年間の平均入学者数の八十一名と比較するとやや多いといえます。そのうち、農業高校出身者は四十二名で、全体の約五割を占めています。また、専業農家の出身者は二十三名、二十七<sup>パーセント</sup>であり、非農家の出身の学生は六十<sup>パーセント</sup>を占める状況にあります。

## 四 専攻の近況（教育部農学科） （一）鉢物・緑花木専攻

四棟のガラス温室や遮光ハウスマウスなど約千五百m<sup>2</sup>の施設、六百m<sup>2</sup>の露地ほ場で百種類以上の観葉植物を栽培しています。一年生は八月まで全般的な植物の管理を学び、九月になると鉢花、観葉、洋ラン、緑化木の四部門から各自担当部門を決めます。そして専攻の指導職員と話し合いながら、責任を持つて担当部門の管理を行い、それと合わせてプロジェクト学習の検討を始めています。



## 喜剣に行うシクラメンの鉢上げ実習

生が多いこともあつて、農業注人への就職によつて、就農の夢を叶えております。本校では、職業安定法に基づく「無料職業紹介事業」を実施するなど、

二年生は、八月に入るとプロジエクト学習が佳境を迎えて、自習時間外にも黙々と調査をして

### (三) 作物専攻

技術であるヒートポンプやLE-Dランプを施設に導入し、品質向上やコスト低減、省力化など課題は様々です。

## 四 専攻の近況（教育部農学科） （一）鉢物・綠花木専攻

四棟のガラス温室や遮光ハウスマウスなど約千五百m<sup>2</sup>の施設、六百m<sup>2</sup>の露地ほ場で百種類以上の観葉植物を栽培しています。一年生は八月まで全般的な植物の管理を学び、九月になると鉢花、観葉、洋ラン、緑化木の四部門から各自担当部門を決めます。そして専攻の指導職員と話し合いながら、責任を持つて担当部門の管理を行い、それと合わせてプロジェクト学習の検討を始めています。



輪ギクの生育調査

切り花栽培に初めて関わる学生が多いため、当初は花の名前も分からぬ状態ですが、二年間濃密に携わることで、全員が花に関する必要な知識や技術を身につけます。

一年生の八月までは、栽培している全ての切り花の栽培管理を学び、九月からキク、バラ、洋花の三部門に分かれ、部門毎に責任をもつて栽培管理を行うと同時にプロジェクト学習にも取り組んでいます。最新の省エネ

切り花栽培に初めて関わる学生が多いため、当初は花の名前も分からぬ状態ですが、二年間濃密に携わることで、全員が花に関する必要な知識や技術を身につけます。



1年生も上手に春収穫ができます